統合開発環境をインストールする

JDK(Java Development Kit)を自分のパソコンにインストールすれば、テキストエディタなどを使って、自分で作成した Java プログラムをコンパイルし実行することができます。

ただ、実際の開発作業では、統合開発環境(IDE)と呼ばれるソフトウェア(ツール)を利用します。 プログラム開発のための強力なサポートを受けられるからです。

IDE には、Eclipse、STS、IntelliJ、VS Code などがありますが、 ここでは最も簡単に利用築できる Pleiades All-in-one を紹介します。

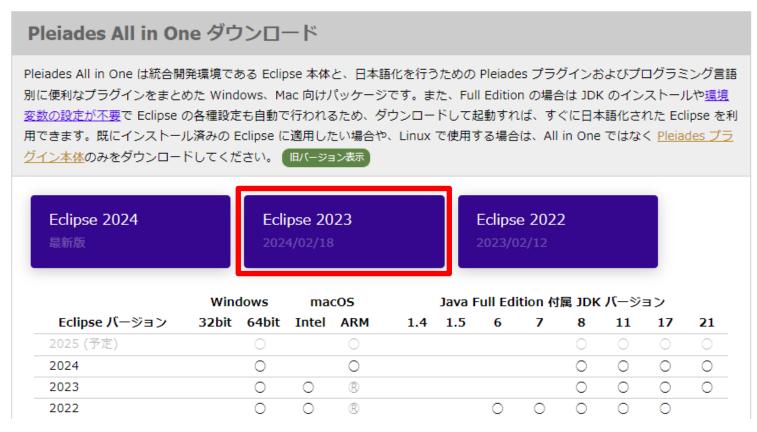
1. Pleiades All-in-one をインストールする

Pleaidesプロジェクトが提供しています。プレーンな Eclipse を日本語化したものに、よく使われるプラグインをあらかじめ追加したものです。

1.1 次のサイトから all-in-one をダウンロードします

「Pleiades: 統合開発環境 Eclipse 日本語化プロジェクト

https://willbrains.jp/

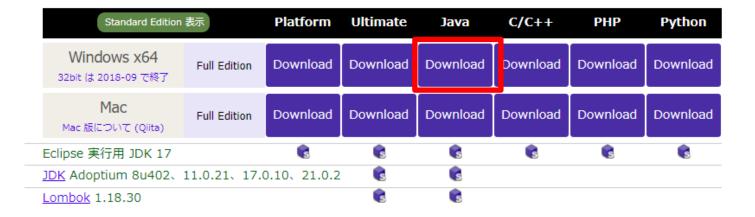


※2024 年 6 月現在、Eclipse2024 バージョンは NotFound になるようです。

Pleiades All in One Eclipse ダウンロード

リリース 2023

- 開発対象となる言語に合わせてパッケージをダウンロードしてください。
- ダウンロードした自己解凍書庫ファイルをダブルクリックして解凍するだけでセットアップ完 了です。
 ▼手動解凍する場合 (Windows)
 「Windows によって PC が保護されました」と表示される場合は「詳細情報」→「実行」をクリックしてください。
- Java Full Edition には、Eclipse 実行用以外に、開発用に複数バージョンの JDK が含まれているため、JDK のインストールや<u>環境変数の設定は不要</u>です。また、STS と Lombok が設定済みのため、<u>すぐに Spring Boot での開発</u>ができます。
- Java Full Edition および Windows 向けの各 Full Edition には各言語の処理系も含まれており、自動デフォルト設定機能により既存環境に依存することなく、コンパイラなどのパスが自動でセットされます。特に理由が無ければ、すでにコンパイラなどがインストールされている環境でも Full Edition をお勧めします。
- 2022 以降、Java Edition の Java EE パースペクティブは Java パースペクティブに統合した ため、Java EE パースペクティブはありません。Java パースペクティブを使用してください (スッキリの中の人の説明)。
- plugins、features ディレクトリーに格納されたプラグイン
- dropins ディレクトリーに格納されたプラグイン
- 🔹 JDK などの各言語のコンパイラー、ランタイムなどの処理系



2/9

ミラー・サーバーの選択





NEXTDesign



Preparing to download Eclipse Pleiades All in One

https://ftp.jaist.ac.jp/pub/mergedoc/pleiades/2023/pleiades-2023-12-ultimate-win-64bit-

jre_20240218.exe

SIZE: 1633945738 bytes

MD5: 4760970900aaf275202e77e62932962f

Downloading... from JAIST.

ダウンロードが始まらないときは ココをクリックします



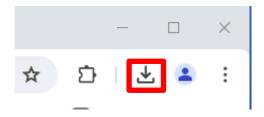
ダウンロードが始まらない場合は、上の赤枠内のリンクをクリックします。

Windows10 Chrome の場合、ダウンロードの状況は、右上のマークで確認出来るようです。

■ダウンロードが進行中の状態



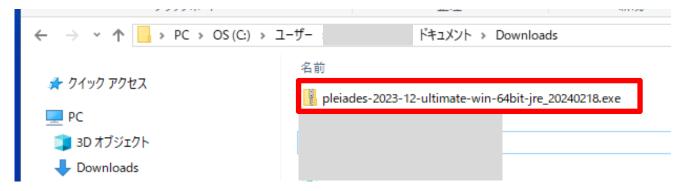
■ダウンロードが完了の状態



上のマークをクリックするとダウンロードされたファイルの場所が開きます。



■エクスプローラの状態

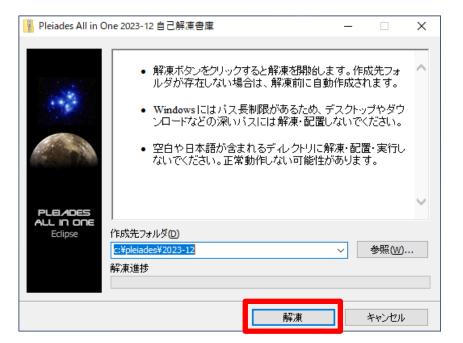


■ダブルクリックでインストールを開始します

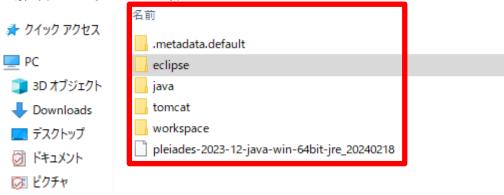
※環境によっては次のダイアログが表示されます。表示されたら、「実行」を押します。



■実行に伴う操作



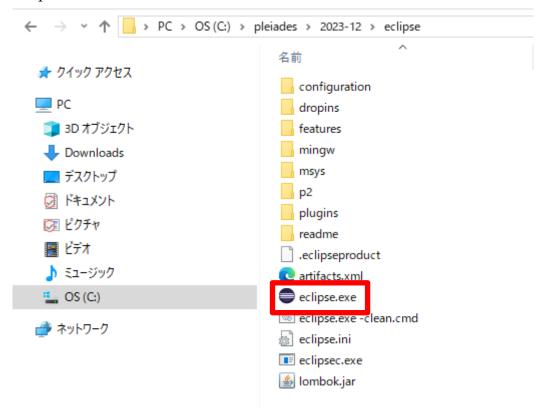
■解凍先のフォルダの内容



■Eclipse を起動します

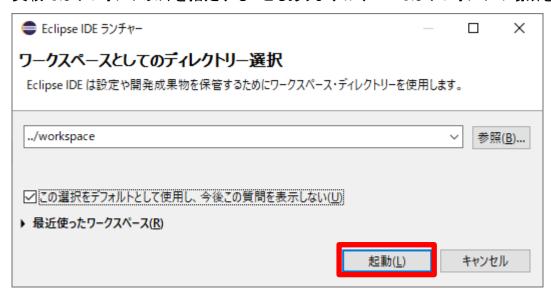
次図の eclipse.exe をダブルクリックします。

eclipse.exe のショートカットをデスクトップ等に置いておくと便利でしょう。



■ワークスペースの選択

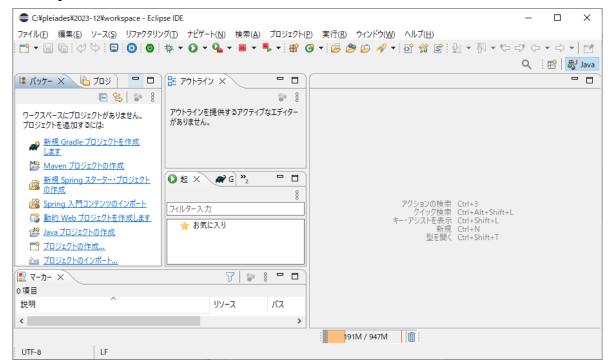
実戦ではデフォルト以外を指定することもありますが、ここではデフォルトの場所を選択



■起動後の画面の状態



■Eclipse 画面



※上図は筆者の好みで、画面の色などを変更しています。変更前はダーク表示(黒ベースの配色)です

ウィンドウ → 設定 → 一般 → 外観 → ルック&フィールをクラシック

ウィンドウ → 設定 → 一般 → 外観 → 色とフォントをメイリオ

■その他の設定

ウィンドウ → 設定 → Java → インストール済み JRE: Java8

ウィンドウ \rightarrow 設定 \rightarrow Java \rightarrow コンパイラの準拠レベル: 1.8

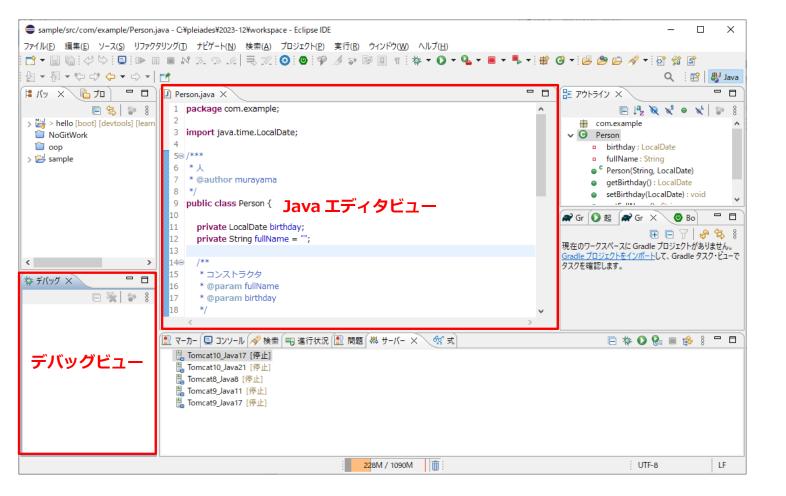
(プロジェクト作成後)

プロジェクト \rightarrow 右クリック \rightarrow プロパティ \rightarrow リソース \rightarrow エンコード: UTF-8

2. パースペクティブをカスタマイス

パースペクティブとは画面内のビューの構成などを定めたものです。

Pleiades All-in-one 2023 インストール直後の画面は使いやすくはないです。はじめからその画面に慣れてしまえばそれでもかまいませんが。以前の Eclipse や All in One、STS などを使っていた人は戸惑ってしまうはずです。 例えば、以下のようなビュー構成に変更することもできます。



2.1 **主なビュー**

2.1.1 Java エディタビュー

Java エディタは、Java プログラムを編集するための特別なテキストエディタです。

2.1.2 パッケージエクスプローラビュー

Java プロジェクトのパッケージやクラスをツリー形式で表示します。

2.1.3 アウトラインビュー

Java ファイル内のクラスやメソッドの概要(アウトライン)を表示します。、

2.1.4 コンソールビュー

Java プログラムの実行時にテキストベースの入出力を行うためのビューです。

2.1.5 デバッグビュー

Java プログラムのデバッグ実行を尿字するビューです。

2.2 移動配置方法

各ビューをドラッグ&ドロップすることでカスタマイズ(表示位置の調整が)できます。

各ビューのタブのないタブバーの辺りをドラッグ&ドロップして動かします。